

事業所名： 福光園グループホームフクちゃんハウス

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900573		
法人名	社会福祉法人柏寿会		
事業所名	福光園グループホームフクちゃんハウス		
所在地	〒021-0901 岩手県一関市真柴字岩ノ沢91番地19		
自己評価作成日	令和4年7月19日	評価結果市町村受理日	令和4年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居するにあたって入利用者様々がどう生活していくか、どう思いを寄せ生活を営んでいくかという気持ちを入居時から大切にしようひとつの我が家があるという気持ちに近づけていけるよう支援しています。不安もあり、慣れない環境の中で自分としての戸惑いも大きい中で過ごす時間をどうやって自分のスタイルにかえていくかという気持ちも大切にしている。生活に不自由さを感じさせない為にも、何が出来て何に不自由しているかという分析も行いながら不安解消、出来る喜びを生活支援の中で取り入れながら毎日変化する気持ち、機能を早期に改善出来るよう職員間で連携し利用者様本人が「何で」という言葉(不安表現)が出来ただけ出ないよう見極めながら安心して変化させています。自分らしくという言葉の重みを受け、「今を大切に」という言葉を生活の中での良薬としながら生活して頂いています。機能維持にも繋げながら出来ない本人が思う事への挑戦と出来た達成感を本人の喜びとしながら自分らしく楽しい生活を送って頂けるよう支援しています。些細な気づきから本人としての不安や、焦燥感も捉えながら今だけではなく、その後の事にも着手しながら支援しています。利用者様同士がお互いに支え合い、助け合いながら毎日生活しています。時には、職員のようにみてるからそっちやっつけていいよという言葉も聞かれたりしている事もあります。コロナ禍の中で何も出来ないという思いを外し出来る事を探しながら生活して頂いています。事業計画の中で利用者の声がどれだけ生活の中で大切かという事も会議等通じて確認しています。いつも同じという捉え方では前には進めず、常に次の事も考えながら支援している現実もあります。職員会議を利用しての自己研鑽も大切に、個々に調べる事で能力向上にも繋げ、情報共有する事の意義にも繋がっています。職員が同じ方向を向く事で利用者様が戸惑いや、不安とならない為にも、視点の大切さ、話す事での安心感、ゆとりを大切に第二の我が家と話して頂けるよう努力しています。いつも同じという概念を外す事、これが次のステップに望める職員個々の視点、視野を高める一助となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、社会福祉法人柏寿会が運営するグループホームで平成16年に開設された。同敷地内には、特養やデイサービス事業所などが一体的に整備され、地域住民の安全安心に繋がっている。管理者のリーダーシップのもと、職員全員が事業所の理念「～和～」とそれに続く四項目の考え方、取り組みの姿勢を理解して介護支援にあたっており、利用者に他の利用者と一緒に強要しない取り組み、食事や入浴、特に排泄支援の強化などによって、生活の質の向上が実現されている。風通しの良い職場環境が職員の行動に現れ、利用者へ寄り添いながら支援することにも繋がっている。コロナ禍で外出が困難な状況が続いているが、ホーム周辺への散歩などのほか敷地内での花火等の実施、室内での軽い運動やDVD鑑賞など様々な工夫がある。家族には運営推進会議の資料のほか、広報紙に併せて利用者個々の様子の写真と文書を送付するなど、面会が制限される中であっても、家族の不安を解消し相互の信頼関係を確立している。まさに利用者の「第二の我が家」が実感されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない

事業所名 : 福光園グループホームフクちゃんハウス

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

事業所名 : 福光園グループホームフクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人がどういうホームにして行きたいか、どう利用者が生活をしていくかという事を踏まえ、個々に考えた理念にしている。年1回年度始めの会議にて確認し合い日々の仕事に反映させている。ホームの玄関に掲示し、法人理念も共有し仕事に活かしている。利用者が安心して生活して頂ける第二の我が家を大切にしている。	開所当初の理念に地域密着の取り組みを加え見直している。職員それぞれが、理念を確認してから日々の介護に当たっている。毎年、事業計画の振り返りの際は、理念を基としてパート職員を含む全職員が自分なりの振り返りを行うなど、理念の共有と実践が確保されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍の中であり、地域との関わりは全く行えていない。以前は、年間計画を立て慰問であったり、地域行事にも参加させて頂いていました。地域に出る事で施設の中だけではなく、利用者が生き活きと楽しく過ごせる場となっていた。雑巾寄贈も毎年継続的に小学校へお持ちし子供達との触れあいも大切にしています。	コロナ禍の中、以前のような地域との交流を行うことは出来ていないが、自治会からの「広報など回覧板返し」は、変わりなく行っている。ホームから地域の小学校への雑巾の寄贈についても、職員が届けるなど、途切れることのないよう継続して取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域から認知症についての講義もお願いされたり、自宅で過ごす不安や、今後自分がどうなるんだろうという気持ちが少しでも楽な方向へ向けて頂く為に今必要な事は何かという目的を踏まえお話しさせて頂いた。又、以前地域行事への参加、小学校への訪問、学校から行事の案内を頂いたり相互の情報交換もかなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を実施し、地域、家族、行政、利用者、職員の構成で実施している。コロナ禍であり、書面開催となっている実情もあるが、ホームでの出来事、研修資料等を配り情報提供している。資料を頂き、勉強にもなりますという声も聞かれている。	利用者と家族全員がメンバーになっている。隔月に開催している運営推進会議は、現在のところ書面会議となっているが、会議資料に併せて送っている研修資料は好評である。地域の委員には直接届けて様子を伝え、意見や要望をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、行政から色々な情報提供をして頂いたりしていた。コロナ禍である為、集まっての運営推進会議は行えていない。事業所としての個別案件も電話、訪問し相談、確認したりさせて頂いている。	運営推進会議への参加を通し、様々な情報を提供してもらったり相談もしている。現在は書面会議としているが、必要の都度電話や役所に出向き相談や適切な助言をもらうなど、良好な協力関係が出来ている。生活保護担当のケースワーカーも年2回ほど来訪し、生活状況を伝えている。	

事業所名 : 福光園グループホームフクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し年間計画を立て実施している。委員会で検討した事を職員会議で研修会を行い職員個々が把握するようにしている。身体拘束定義確認表を活用しその場の研修だけでの理解ではなく、日々毎日チェックし拘束をしない支援を徹底している。又、年2回運営推進会議を活用し地域、家族の方々にも研修を自分の立場、家族の立場から考えて頂くように努めている。	身体拘束廃止委員会を設置し「身体拘束排除宣言」や防止のためのマニュアルも確認しながら、拘束の無い安心安全な介護支援に努めている。夜間の転倒防止のためのセンサーは、必要最小限の範囲で本人や家族の納得を得て設置している。職員は、会議の場でお互い気になる点を話し合い、「利用者が鏡」を意識して介護にあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて虐待について資料を基に説明し共有を図っている。又、禁句マニュアルを作成し毎年マニュアルの見直しをかけながら職員の意識向上、自分の言葉が本当に正しいのかという事も考え支援している。家族様に対しても常に利用者が不安とならないよう出来るだけ情報提供し相互共有を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて資料を基に説明をしている。研修の一貫として取り組み毎年振り返りながら全体での知識、情報共有に繋げている。研修を行った資料については、行政、地域、家族様へ提供しお互いに理解して頂けるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する際に説明している。契約時に入居する事で様々な事での不安や相談事等行う事もあり、理解、納得して頂いた上で契約に繋げている。又、規定変更等の際は随時書面にて説明し確認書の取り交わしを行っている。家族様より個別的に相談等も多くあり、案件に応じた説明も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時等に意見、要望は伺っている。※コロナ禍の為、運営推進会議は書面開催としているが、集合開催の際は、様々な意見、要望、取り組みに対する助言も沢山頂いた。玄関前には相談箱を設置している。要望、意見については職員間で共有し改善出来る事、継続出来る事等様々な視点から考えながら運営に努めている。	利用者の声は直接に、家族からは通院時などに相談等を受け不明の点などは電話で確認することが多い。広報とともに利用者それぞれの写真や様子を記録した文書も送付している。2年に1回、アンケート調査を実施して家族の意向を把握するなど、事業所として家族の声を受け止めようとする姿勢が出来ている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームフクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、年2回の個人面接の際に今、自分が思う事、どうすればホームが良くなるか等相談されたり、「こうしたい」という思いも多くなってきている。風通しの良い関係性を構築する事で職員が生き活きと仕事出来るよう努めている。月1回の会議を有効なものとし、大切さから自分磨きにも繋げている。	職員に対し、自分で気づかせるよう管理者が話すなど、職場の雰囲気や窮屈にしない工夫がある。毎年6月と12月に職員面談を実施し、職員の思いを聞いており、風通しの良い職場環境の確保に努めている。職員の提案で、万が一のコロナ発生に対応する防護服や使い捨て容器、検査キットなどの資材を取り揃えた実績がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境をまず整備する事。皆さんの職場がどうあるべきかという事も個々に考えて頂きながら自分の力量が発揮出来るよう努めている。その日の体調に合わせて皆でカバーしあいながらお互い様の精神で共に支えあっている。一つのミスはみんなでフォローの誠心で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での研修を大切にしている。毎月の自己研鑽から自分なりに調べるという事を大切にしながら常にヒントを与えるのではなく、まずは調べるという事にシフトを置いている。聞く事は勿論大切であるが、調べる事でより一層自分に厚みを増してくる為、調べる事を大切にしている。管理者から毎月資料を提示し職員間で共有を図るようにしている。学べる環境をいつでも大切に職員意識にも変化が出てきている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ前は施設内外の研修に参加する機会を作り、情報交換したり、交流を図ったりする場を設けており、様々な視点から仕事に活かせるプロセスであったり、自分磨きにも繋がっていたが、現在は全くそういう場は持っていない現実がある。常に情報は大切にしながら動向を確認しながら少しでも個々の資質を高めるよう努力している。		

事業所名 : 福光園グループホームフクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、本人、家族様との面談を中心に家庭に訪問し生活状況について確認している。これまでの生活をどのように過ごし何を大切にしてきたか等確認し本人の生活に不自由がない為にもきちんと聞き取りを実施しお互いが安心出来る環境作り、希望を取り入れた本人への生活を大切にし共に支える場の提供としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、家族様としての思いや、以前と今がどのように変化して来たか、そして、そこから何が見えてきたかという事を聞く事を大切にしている。ホームでの本人の生活についても詳しく説明し納得して頂いている。家族様がどのような生活を望むか、不安に思うことは何かという事も共有している。入居前には本人、家族様の目でホームを見学して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様との話し合いの内容をもとに、現在何が不自由しているのか、不安に思う事等を職員間で見極めながらその場での状態に応じた支援をどうするかという事も瞬時に判断出来る支援も提供している。生活習慣、気持ちの向き方も大切にしながら生活障害とならないよう支援し、出来る事への支援にも力を注いでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	在宅からホームでの生活となる事から、状態に応じた対応、出来る事、出来ない事の見極めから負担を与えないよう支えていける環境作りを着手している。本人が安心して生活して頂く為に、伸ばせる所は生活維持に繋げ、難しい所は共に行い身体表現に繋げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	住み慣れた自宅での生活からホームでの生活に対する不安、窮屈さはあるようである。その中でも、本人としての生活がここでよかったと思えるよう些細な事、気持ちを分かち合いながら支えていけている。家族様には毎月お便りを出しており、どういう姿で生活しているかという事も解るよう提供している。面会時も一時の家族様との団欒を大切に共に支え合える関係性も構築出来ている。		

事業所名 : 福光園グループホームフクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の協力も積極的であり、何かあると連絡を頂き相談されている。今まで培ってきた場所を大切にしながら家族様と共に過ごす時間を優先させている。コロナ禍であり、訪問も殆ど見られないが、面会時様々な話をしている姿を耳にすると、本人としての安心感であったり、懐かしむ光景も目立っている。	利用者や友人等の高齢化から、馴染みの関係の維持継続に苦慮している。利用者の馴染みが殆ど家族となっている中、コロナ禍も重なって家族の来訪も少なくなってきている。職員は、利用開始時のアセスメント資料や家族からの情報を細やかに聞き取りし、馴染みの発掘や継続につなげようと取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々に生活があり、ホームでの生活にも馴染めており、お互いがお互いを助け合って生活されている。軽作業していれば自ら自分もという思いに立ち行ったり教えながら支えてあげたり、とても暖かみのある利用者の方々ばかりです。職員も間に入り常に橋渡しをしながら良好な関係作りを実現している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族様との関係も構築しており、慰問に来て頂いたりしていた。現在は実現されていないが、家族様としても良かったと言って下さり様々な形で交流を続けていきたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、家族様の思い、本人がどう生活を望んでいるのかという事を確認している。生活していく中で利用者同士の会話、触れ合いを大切にする事で場の思いを引き出しながら内面に隠れている思いを大切にしている。生活が楽しいと思えるよう第二の我が家として生活維持出来る支援も提供している。職員会議、カンファレンスを通じて話し合いを大切に家族様、本人の希望に添えるよう支援している。	いままでの暮らしの継続を基本と考えて介護に臨んでおり、他の利用者と一緒に強要することの無いように努めている。利用者の思いをよく聞き、言葉が不自由な場合は表情を見たり選択肢を示して選んでもらうなどの工夫をしながら、できるところまでは自身で行い、できない所をサポートすることに心配りしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、家族様の聞き取りを実施し、これまでの生活歴を確認しフェイスシートを作成している。決してフェイスシートだけにこだわらず生活する中で出てくる事も本人のスタイルとして維持出来るよう支援している。関わりを重要視しながら相互の信頼感をより築くようにしている。		

事業所名 : 福光園グループホームフクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定、食事、水分、排泄のチェックを行っている。生活には欠かせず本人の体調管理、健康維持の為にも必要不可欠である。状態把握にも繋がり誰が見ても解るようシステム化している。ケース記録も大切にしており、職員間での情報共有にも繋がっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、職員会議で評価している。担当を決めその人の目線でどうだったかという事を確認している。その後、不足している事は職員からの意見を反映させている。定期的にケアプランの見直しを行っている。コロナ禍の為、家族様の参加は得られていないが、日常生活の中で本人の状態を確認しプランに活かしている。その後、家族様から同意書を頂いている。	居室担当制はとらずに、全職員が利用者全員の意識で、全職員で気になる点などを出し、意見交換しながら計画に反映させている。理念を念頭に、自分らしい暮らしができるためのプランづくりに努めている。見直しは、基本的には半年ごとであるが、利用開始から3か月後、急変時は必要の都度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は本人にとっての生活の物語としている。大切な事だけでなく、時系列で記録する事で何をしていたかという内容が読みとれるように記録している。職員との情報共有にも繋がりケアに対するズレが生じないよう取り組んでいる。又、職員会議でケアプラン評価を行う事で更なる本人像が見えてきている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームでの生活から見えてくる事を大切にする事でその日その日の状態が把握出来ている。家族様の面会もあり、一時の時間を有効化させ共に支え合える環境作りを実践している。コロナ禍の為、個別的に外へ外出する事は出来ないが、その人にとって大切な場所、行きたい場所にも以前は一緒に出かけた事もあった。緊急通院も比較的多くあり、家族様の同行もスムーズである。その場に応じた対応を行う事で家族様との信頼関係にも繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は、地域行事にも参加しており、運動会、慰問(踊り等)、子供御輿、小学校への雑巾寄贈を行っていた。現在はなかなか地域へ出向く事が出来ず、いつか行ける日、来所して頂ける日を待ちながら小学校への雑巾寄贈の為、日々利用者様は縫い物等積極的に行ってくれている。楽しみの一つとなっている。少しでも役に立ちたいという思いが根付いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からかかりつけ医へ継続的に受診されている。家族様に通院同行の協力も得られている。家族様通院の際は医師宛に通院情報提供書を作成し医師へ確認して頂いている。連携を大切にしながら家族様にも安心して頂けるよう配慮している。又、状況に応じてはホーム対応であったり家族様にも同行して頂き、一緒に医師の話を聞いて頂いたりとお互いに情報共有に繋げている。医師、家族様、ホームとの連携を密にする事が重要とされる。	利用者と家族の納得を得て、時間外受診や入院なども考慮して、かかりつけ医の協力病院への変更を行っている。通院同行は家族を基本としているが、遠方など家族の事情等により、職員が同行する機会が多くなってきている。病院との情報共有は確実に行われ、緊急の対応も円滑に実施されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームに看護師はいないが、緊急を要する際は併設看護師への協力は得られている。しかし、職員もある程度の医学知識をつけており、状態に応じた対応は比較的スムーズに行えている。情報共有する事が大切であり、1日を通しての変化は常に見逃す事なく把握出来ている。必要な際は管理者に連絡をし指示を仰いだり相談出来る対応になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	出来るだけ入院はさせない方向で支援していますが、どうしても入院を要する際は、医師、家族様への連携を密にしながら入院治療計画書の説明を聞き、治療方針、期間等の確認を行っている。又、家族様、病院側より連絡を頂きながら状態確認している。早期退院に向け退院後の支援についても連携を図りながら本人にとっての不安を軽減させる支援と病院、家族様とのその後の状態についても連携を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、法人運営している特養への申し込みは行って頂いている。重度化に伴い当ホームで生活が困難となった際、又は、医師からグループホームでは難しいという判断をされた際は出来るだけ住み替え出来る支援は行っている。出来るだけ最期に近い状態まで見てほしいという家族様の思いがある方もいる為、常に情報共有しながら対応させて頂いた事もあった。しかし、決められた環境の中で出来る事は精一杯尽くしその人がここでよかったと言って頂けるよう対応はしている。又、住み替えを行う事での安心感もあるようである。本人が安心して生活して頂ける場の大きな選択肢にも繋がっている。	看取り対応は今のところ無いが、万が一に備えて利用者の食事や排せつ、入浴等の生活状況や身体状況の重度化に対応した三段階の「支援体制モデル」を作成し、各段階に応じたケアの提供体制をとることとしている。現在、全介助の利用者2名への必要なケアは確保されている。口から栄養が取れない状態の場合は、家族や関係者と調整し、入院や特養などへの住み替えとしている。看取り体制が整い法人としての方針が決まれば、看取りに取り組むことも前向きに考えている。	

事業所名 : 福光園グループホームフクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの作成、ホーム内での研修を行いながら職員の意識を高め、瞬時に対応出来る体制を構築している。急変時等のケース記録も充実させ、申し送りの重要性から職員間での共有に繋げていく。誰もが同じ対応出来るよう日々共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルの作成、定期的に避難訓練を実施している。年1回、消防署員立ち会いの基訓練を実施しており、一連の動作の確認をして頂いている。又、助言を頂き次ぎの訓練に活かしている。拠点として地域の災害協力員の体制も整えられており、有事の際は協力頂ける体制が構築されている。	ハザードマップでは土砂崩れの心配があり、年4回の避難訓練のうち1回は消防署の立会いの下で実施している。地域の災害協力員に9名の方をお願いし、訓練にも参加していただいている。地盤が盛り土ということもあり、地震に対する備えを特に意識している。近隣の法人施設とともに必要な備蓄を行い、AED等の訓練も確実にやっている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアル、禁句マニュアルを作成しており、日頃の仕事に活かしている。又、自分の振り返りにも繋がり日々確認しあいながら仕事に繋げている。利用者個々の思いを聞きながら、思いを受け止め、尊重し対応している。決して一人歩きはせず思いの裏側までみるよう対応している。そこから見えてくる内面事情が大きな生活のカギとなっている。	利用者の長期記憶の掘り起こしや思いを受け入れることに努めており、接し方や話し方には特に注意を払い、うなずくことを挟みながら伺っている。この時期はマスク越しの会話ということもあり、職員は目で相手に伝えることに様々な工夫をしている。また、入浴に異性介助を望まない方には、特に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、利用者個々の思いが出せるよう努めている。自分の言葉として出す事で意欲向上、不安除去にも繋がっている。話せないからという事ではなく、表情、体動からも大きな発信となっている為、受け止めながら対応している。雰囲気作り、言い出せるようアプローチも重要視している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の特徴を把握しており、余暇活動も大切にしており、自分から何かしたいという声も聞かれ選択肢を与えながら対応している。又、自分の仕事と行って行っている方もおられる。何かあれば声かけて手伝うからという声も聞かれホーム内とても活気のある生活空間となっている。1日の最後が笑顔、助け合い、不安のない1日であったと振り返られている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームフクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着替えを選択し着ている方もおられる。又、午前、午後と着替えをされている方もおり、その場その場で自分の思いから行為に移している。季節に合った服装を選びながら肌感も大切としている。洗顔、整髪は声掛けにて行っており、出来ない部分はお手伝いし対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の嗜好は把握出来ている。入居する際聞き取りを行い把握している。毎日の買い物は継続しており、3食共に職員が作っている。盛りつけ、片づけを手伝ってくれる方もいる。食べたい物を聞きながら食事提供したり、誕生日にはご馳走を振る舞い今日の日をという事を把握して頂いている。	献立の作成、食材の購入、調理を職員が行い、下拵えやお盆・テーブル拭きなどを手伝ってもらっている。食べたいものを提供することに努めており、誕生日にはご馳走、普段には旬のものを中心としているほか、刺身を出すこともある。食事を楽しむことを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の状態に合わせた食事の提供を行っている。食形態も重要としており、その日の体調に合わせた形態変更も実施し、少しでも食べて頂けるよう工夫、安全に配慮している。又、年2回管理栄養士によるカロリー計算を実施し、様々な意見を頂き次の食事提供に繋げている。日々の食事量、水分摂取量をチェックし状況に応じて水分を多く摂って頂いたりと対応している。状況について職員間での共有を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて口腔ケアを実施している。衛生には特に気を配っており、感染防止にも繋げている。口臭がある方には家族様と相談し歯科通院を勧めている。通院する事で口臭除去となっている。就寝時には入れ歯を預かり洗浄剤につけ消毒し衛生管理にも努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々に排泄表を作成しており、排泄パターンは確認出来ている。殆どの方が尿取りパットを使用しており、声掛けでの誘導、自分からの訴え、リハビリをしながらその後トイレ誘導等工夫しながら対応している。オムツの使用はせず出来るだけ自分の力を大切にトイレでの排泄実践に繋げている。職員2名で介助する事もあり、少しでもトイレでの排泄を大切にしている。	排泄支援は、利用者それぞれの力を大切にし、オムツを使用せず、できるだけトイレに行くことを目標としている。無理にトイレに連れていくことなく、チェック表を活用した声掛けなどで効果が見えてきている。夜間のポータブル使用もなく生活の質の向上に結び付いている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームフクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事での工夫、体操等を踏まえながら少しでも便秘解消に繋げようと努力している。なかなか改善は難しいものの、生活に不自由さを感じない為にも、医師への相談、医師からの指示もあり個別的な対応で排便に繋げている。体調管理に大きな課題とならない為にも。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施している。1日の入浴者は限られているが、出来るだけ入浴は楽しみの一つとなれるようにしている。同姓介助希望者もおり、本人の希望に沿った対応も実施している。又、その日の状態、体調変化に合わせた入浴方法も提供しており、入れないという事ではなく少しでも生活の一部として大切なものと理解し対応している。	1人週3回の入浴を目安としている。服を脱ぐことを面倒に思うなど入浴を嫌がる利用者もいる、強制することはせずに、時間や日を変更したり、清拭や足浴などに変更して清潔につなげている。入浴時間は利用者と職員がゆっくりと話す良い機会にもなっている。入浴剤は、好き嫌いなどもあって、現在は使用していない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の睡眠パターンは把握出来ている。夜間どうしても寝付けずにいたりする事もある為、会話を持ったり飲み物を提供したりする事で又、睡眠に近づけられている。日中も自分で居室へ戻られ休まれたり、テレビを見たりと自分の世界観に入っている方もいられる。本人がどうしたいかという事を大切に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の状態は常に把握出来ている。通院時の記録、日々の記録を確認しその場で減薬しながら対応している方もおられる。通院時家族様、職員からの報告、薬の説明、目的、副作用についても職員間で知識を共有している。家族様が通院する際、口答ではなく医師宛に情報提供書を作成し確認して頂き処方して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分から何かしたいという言葉も聞かれる為、余暇活動、洗濯物たたみ等手伝って頂いている。機能維持、活用にも繋がり楽しみと思っ頂けるよう支援している。コロナ前は、外食、ドライブ等実施しており、外へ出かける事も多く取り入れ内外を自分の目で確認したり、気分転換に繋がったりしていた。慰問もあつたりと外部の方々との触れ合いも大切にしていた。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームフクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出する機会は得られていない。以前は、誕生日は外食したり、家族様と過ごす時間にあてたりしており、少しでも自分の時間を大切なものとしていた。家族様との行事にも力を入れており、季節事の行事を計画したりしていた。地域の行事にも参加したり訪問して頂いたり地域との連携もはかれていた。小学校への雑巾寄贈は毎年実施しており、1年かけて雑巾を縫いささやかな気持ちで子供達の笑顔を引き出している。	コロナ禍で外出は通院時に限られ、唯一、天気の良い日は事業所周辺の散歩を行っている。周辺では、春に桜が咲き、秋には紅葉も見ることが出来る。外出の機会が少ないことから、室内での余暇活動を充実させ、塗り絵や折り紙、軽い運動、DVDの時代劇鑑賞などで飽きない工夫をしている。季節感を出し感じてもらうことに努め、近日中に敷地内での夏祭りや花火などの演出を予定している。	コロナ禍にあって感染に注意を払いながら、通院以外の機会にも「軽ドライブなど」の外出支援ができないか、職員で知恵と出し合い検討されることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様よりお小遣いとして預かっている。帳簿につけており、毎日残金の確認を行っている。利用者個々がお金を持つという事は家族様の同意の基行っていないが、少しでも持たせたいという際も家族様の同意、ホームからのお願いもお伝えし承して頂いた上でやっている。必要物品については家族様が購入して頂いたり、電話しお願いしたりしている。又、ホームで購入する場合も多くある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様より定期的到手紙を頂いてる方もおり楽しみとなっている。利用者から電話したいという希望があれば連絡出来る支援はしている。家族様からの電話では本人へ取り次ぎ話をされている方もおられる。声を聞くだけでもお互いに安心感が得られているようである。そういう時間を大切にしていける今の時期なんだろうと感じる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節、天候に合わせて共有空間(食堂、居室、廊下、トイレ)は空調、加湿器で調整している。又、照明については利用者からの声を大事にし不快感を与えないよう対応出来ている。廊下にも椅子を置いており、自由空間を大切にいつでも誰もがくつろげるスペースとしており活用も大いにある。花壇も整備しており、季節事の花を楽しむ事が出来るように配慮している。	天井が高く開放的な共有空間があり、季節の花が飾られ、温度等が適切に管理された寛ぎのスペースが確保されている。廊下にはボランティアによる貼り絵が飾られ、居心地よく過ごせる環境ができています。利用者同士のトラブル解消に配慮した席替えも工夫されている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームフクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂で過ごされる方が殆どであり、利用者同士の会話も見られている。笑い声や、心配する声も聞かれお互いがお互いを気遣うようになっている。自分でここがいいと言ってくつろいでいたり自分の居場所の確立が出来ている為、不安は少ない状況である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に居室の確認は行って頂いている。自分が過ごす居室として使用する訳だが、何が重要かという事は話し合っ準備されている。お位牌を持って来ている方も以前はおられた。又、馴染みの写真、物品を持って来られいつまでも忘れずに自分が大切に使用していた物の大切さを今でも継続されている。不足な物については家族様に準備して頂いている。	ベッド、クローゼット、洗面台と空気洗浄機が設置され、テレビ、健康器具など、利用者それぞれの馴染みのものを持ち込んでいる。家族の写真や花、手作りの作品も飾られ、第二の我が家として、安心して安らかに過ごすことのできるスペースが確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体バリアフリーとなっており、安心して生活出来るようにしている。廊下、トイレ、浴室には手すりを設置している。廊下には椅子を置き一時的な休息や、自分の憩いの場となっている。廊下の幅も広く不自由さがないようになっており、障害物も出来るだけ少ないようにしている。動線の確保は重要とされ、安心かつ安全配慮に努め、出来るだけ機能活用出来るようにしている。自分の居室には名札をつけ自分の部屋という事の認識と安心感を与えられるようにしている。		